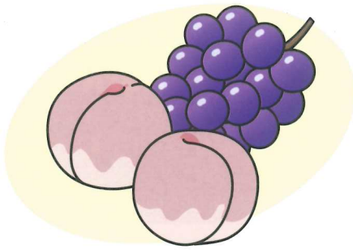
中北地域普及センター　果樹産地の新規就農者育成に取り組んでいます



ブドウ剪定講習会

モモ剪定講習会

穂坂、大草、新府地区といった韮崎市内の果樹産地では、農家減少による産地衰退を食い止めるため、それぞれ、特徴的な担い手確保対策に取り組んでいます。

中北地域普及センターでは、このような産地維持活動への支援として、新規就農者を対象とした果樹栽培講習会を行ってきました。

平成２５年度は、適正な肥培管理や効率的な病害虫防除のための講習、平成２６年度には剪定についての座学と、実際の畑での実習を進めました。実習では新規就農者同士が意見を出し合いながら作業を進める方式としたため、交流が進みさらに情報交換の場にもなりました。

普及センターでは、今後も新規就農者の技術向上や交流の促進に取り組んでまいります。

峡東地域普及センター　GAP導入による果樹産地の発展の支援

ＧＡＰとは「農業生産工程管理」の略であり、「食品安全」「環境保全」「労働安全」の観点から「よい農業」とは何かを考え、農業生産の工程を改善していくことです。特に消費者からの注目が高い食品安全を例にすると、美味しい果実を出荷するのは当然で、農薬の保管や使用状況を明確にし、安全な食品としての根拠を示すことができるようになります。「記憶」と「経験」による作業から、「記録」と「点検」による管理を行うことを目指します。

山梨市加納岩地区の農家で組織する加納岩果実農業協同組合では、平成２５年度から全組合員２６戸でＧＡＰ手法を導入し、平成２６年度には組合員の意見をもとに管理基準・チェックリスト（基準どおりできているか確認するためのもの）の見直しを行いました。

管理基準の内容の検討を行うなかで、作業安全の観点から改めて農業用機械の管理・点検方法について学ぶことが必要だという意見が出たため農協独自で講習会を開催しました。また、ＧＡＰに取り組んだことで、取引先からの評価も高まり大手量販店のブランドとして扱われることが決まるなど販路拡大や有利販売にも繋がっています。

ＧＡＰの取り組みは導入して終わりではなく、改善を行っていくことが重要です。そのため、普及センターではＧＡＰ手法の定着を目指し、理解促進、管理基準およびチェックリストの作成・検討などの支援を引き続き行っていきます。

役員による打ち合わせの様子

機械点検講習会の様子

峡南地域普及センター　『果樹複合経営地域の維持を目指して』

峡南地域普及センターでは、地域における果樹栽培者の高齢化、栽培面積の減少に対する取り組みの一つとして、ブドウ栽培へ省力化技術（短梢剪定）の導入を推進しています。

果樹試験場への視察

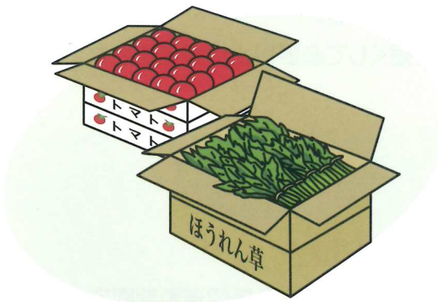
本年は、JA西八代ブドウ部会員の有志が果樹試験場への視察および長梢から短梢への切り替え技術に早くから取り組んでいる山梨市牧丘町への視察を行い、短梢剪定への理解を深めました。

また、現在、市川三郷町内に2個所の展示ほを設置しており、１園では苗木を新植して樹形完成までの状況を実証し、もう１園では長梢剪定樹から短梢剪定樹への切り替えの実証を行っています。

来年度も展示ほを継続すると共に、退職帰農者や後継者を対象とした栽培の基礎知識についての学習会開催など、地域の担い手を支援する取り組みを行っていきます。

枝の誘引位置を検討（短梢樹への切替）

富士・東部地域普及センター　「所得向上を目指した複合経営の研修会の開催」



身近な優良事例についての情報交換会

富士北麓地域には、野菜と花きの協議会があり、当普及センターの支援のもと、各組織で技術及び経営の向上を目的とした研修会を開催しています。

両協議会員の多くが野菜や花き、水稲等の「複合経営」を行っている実態から、さらなる所得向上を目指し、初の合同研修会として、複合経営に着目した情報交換会を企画したところ、50名を超える参加者があり、関心度の高さがうかがえました。

複合経営は、経営計画、作目、作型等の組み合わせに大きく左右されるため、これらを検討する際の参考として、岳麓試験地が行う試験事例の中から、地域の複合経営に適した花き品目や、短い作付期間で効率的に栽培できる年三作栽培を用いた組み合わせについて紹介し、併せて、地域で行われている複合経営の中から、「直売所向け少量多品目」と「市場出荷向け省力低コスト」の優良事例を紹介しました。その結果、新たな作目の導入を考える生産者が現れる等、自らの経営を見つめ直すきっかけづくりとなりました。

今後も、野菜・花き等の儲かる農業の実現に向け、様々な角度から支援を行って参ります。